

フォトアルバムによる家族のコミュニケーション

Family communication with photo albums

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 生活文化マネジメント研究室

宮坂 侑奈 指導教員 氏家 和彦

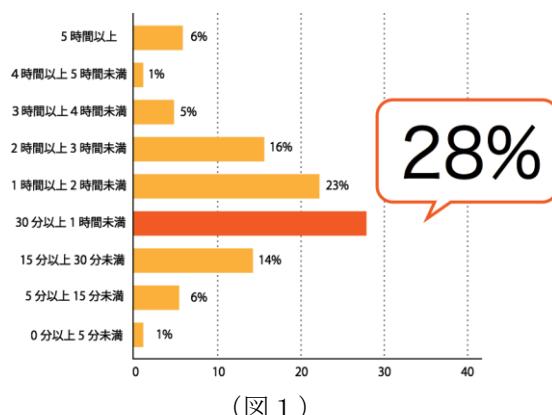
キーワード：フォトアルバム、親子、手作業

1. 研究目的

現代の家庭環境について調査をすると多くの家庭が「子供と向き合う時間が少ない」と感じていることがわかった。そこで、家族のコミュニケーションやふれあいの機会、仲を深めるきっかけづくりになるものを提案したいと考えた。

2. 調査内容

親子の会話時間について調査した。小学生の子供を持つ20代から40代の母親にむけたアンケートを見ると、1日の会話時間は30分から1時間という家庭が一番多く、3時間を超える家庭はごくわずかであるとわかった。(図1)



(図1)

更に、子供との会話を増やしたいかという質問には84%が「そう思う」と答えた。

これらの状況は家庭を取り巻く環境の変化（帰宅時間、在宅時間など）や子育ての方法の変化が原因ではないかと考える。

また、その多くが会話時間を増やしたいと思っていても、その方法やタイミングがわからないのではないかと考えた。そして、これらの解決に有効なのが向き合い方の質をたかめることであり、そ

の方法として「共同作業」「共視体験」がカギになるといわれている。

3. コンセプト

以上の調査から提案物を「親子で同じ体験ができるもの」に決定した。

提案内容：親子の「フォトアルバムの制作」

ターゲット：こどもを持つ家庭

(未就学児から小学校低学年)

親子でできることは何か、と考えた際にアルバムの制作が減少傾向にあることに着目し、本研究と結びつけられるのではないかと考えた。

「思い出を振り返り、会話のきっかけづくりになる」、「不足した子供と向き合う機会を増やす」ということをねらいとする。

4. アイデア展開

現在のアルバムの制作状況について調べると、調査した家庭の半数以上が「アルバムを所持していない」ことがわかった。

現状調査 [家庭内アルバム所持数]

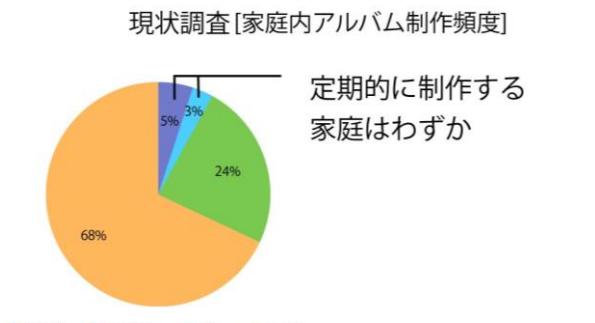


1冊もアルバムを所持していない家庭が半数を超える。

「フォトアルバムが育児に与える影響に関する検討」より

(図2)

また、同じく制作頻度について調べると定期的に制作する、という家庭はごくわずかであるとわかった。



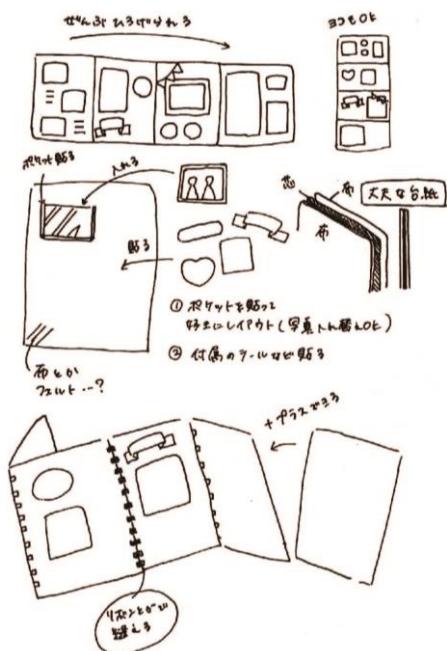
(☒ 3)

また、従来のアルバムには大きくて扱いづらい、収納に不便といった問題がある。そのため従来のアルバムの様式では制作数を増やすことは困難と考えた。

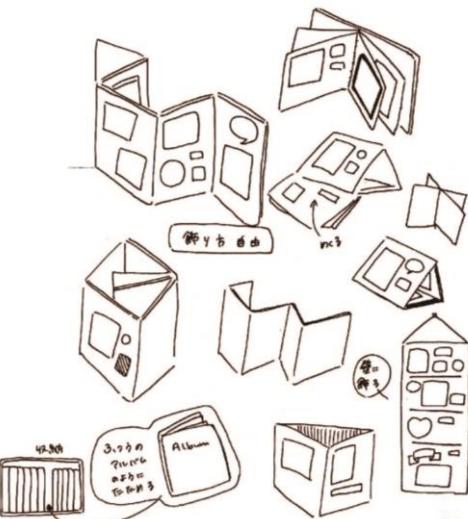
そこで提案するのが「つくれて楽しい、見て楽しい」フォトアルバムだ。

切る、貼る、書き込む、の過程を通して楽しんでもらう、飾れるといつても鑑賞出来る、というものである。

具体案として、制作は「誰でも簡単に作れる仕組み」として、材料がセットになっている、難しい作業を省くことを検討。更に作った後そのまま飾れる形状ということで屏風型を検討している。



スケッチ



試作

5. 最終提案・課題

ターゲット層と提案物の関連性をより深め、興味をもってもらえる工夫を検討する。

6. 参考文献

- 1) 「親子の会話に関する調査」 グリコ プッキン
プリン
<https://web.pucchin.jp/muffin/index.html>
2020年8月9日

2) 「フォトアルバムが育児に与える影響に関する
検」 大阪教育大学紀要第Ⅱ部門第65巻第2号 1-8
頁 〈2017年2月〉 小崎恭弘、城戸楓、石田文弥
2020年6月28日

3) 「ウワサの保護者会」 NHK Eテレ
「子どもと向き合う時間がない！」(2017年2月)
<https://www.nhk.or.jp/hogosya-blog/100/262919.html>
2020年6月12日